

伊達市の強みと弱み の洗い出し結果

平成27年7月14日

伊達市の強みと弱みの洗い出し一覧

【内的環境】

分野	強み	弱み
地理的 立地	福島市に隣接している	魅力的な買い物などができる施設が少ない
	相馬福島道路、復興道路建設などで「浜通り」と「中通り」の拠点地域	便利な方へ生活しやすい方へ人が流れる。特に若い人は便利な方に就職する。
	首都圏までの時間短縮	
	市街地等への移動がしやすい	
	仙台、福島、郡山への移動が容易	
	宮城県と接しているため、他県民との交流や観光客・買物客が来やすい	
地域資源・ 自然環境等	観光資源（霊山、伊達氏、各種イベント）が豊富である	観光資源を生かしていない
	子どもの遊べる公園がある、霊山子どもの村がある	レジャー施設が少ない
	豊かな自然がある	魅力のある場所が少ない
	桜の名所がある	泊まる場所がない
	交流のための地域資源がある	お土産がない
	歴史や文化的財産がたくさんある	
	ロケーションが良い	
	ももの里マラソン大会がある	
居住		住宅を建てる場が少ない
		市街化調整区域があり開発制限を受ける
		空き家の増加
		空き家の活用ができていない
		核となる都市部がない
公共施設	合併の経験があり、各地域で施設等が整っている	
	使われなくなった公共施設等の建物があり、低コストで新規事業が展開できる	
	光通信網完備（市内全域光ファイバー）	
交通	交通網が充実される	公共交通機関の便が悪い（中山間地域）
	国道4号が走っている	公共交通機関が不十分であり、通学の利便性が低い
	JRや阿武隈急行がある	道路の狭いところがまだ多数ある

伊達市の強みと弱みの洗い出し一覧

【内的環境】

分野	強み	弱み
教育・子育て	認定こども園など子どもを預ける環境が多い	廃校となる学校がある
	小・中学校（保育園・幼稚園も含めて）の数はある	教育レベル（学力）が低い
	子育てのポテンシャルはある	支援・サービス・相談・保健の総合的な対応
	子育て資源が充実し、特に乳幼児期の環境が整っている	大学がない
	各地域に子育て支援拠点（子育て支援センター、子育て相談センター）が整備され、身近な相談の場がある	
	屋内遊び場がある	
	子育て支援ヘルパーや第3子に対する出産一時金など、子育て支援の施策が進められている	
	妊娠期からの健康管理が充実している	
子育ての環境が充実している		
農林業	農産物の生産量及び種類が豊富である	山林の荒廃が進んでいる
	農産物がブランド化されている	農業の担い手（後継者）が不足している
	豊かな土壌があり更なる発展の可能性がある	耕作放棄地（遊休農地）の増加
	耕作放棄地などを活用した新ビジネスを作る場所としては良い条件下にある	
	低価格な広い農地等の土地があり、工場・商業施設の誘致に良い条件下にある	
緑が多く農地が広がっている		
治安	事件、事故が少ない	地域犯罪の増加（市内の特定地域が増えている）
認知度	放射能で世界的に有名	シティプロモーションが不足している
	聖光学院高校という全国的な知名度の学校があり、関西などからの生徒の誘致が期待できる	地域の人たちの意識改革がなされていない
	まだ固まったイメージがないので、今後、理想とするイメージをつけやすい	「伊達市」が全国的にあまり知られていない
ミュー	地域のつながり（自治会・防災組織など）がしっかりしている	若者の交流の場が少ない
雇用	女性の就労意欲が高い	働く場所が不足している
		賃金（給与）の高い企業が少ない
		退職まで安心（安定）して働ける企業が少ない
		働きたい職種の企業が少ない
		若い世代に魅力的な雇用の場が少ない
		将来的に大きく成長できるような企業が少ない
		県の北部、地理的な場所から狭いエリアでの商業圏
高齢者	健康な高齢者が多い	元気な高齢者を生かしきれていない
		介護施設では人材不足になっている
		年寄りが強すぎる

伊達市の強みと弱みの洗い出し一覧

【内的環境】

分野	強み	弱み
付加価値		伊達市としてのブランド感の低さ
		高校生の地元離れ（優秀な人材は福島市へ行ってしまふ）
		市のブランドイメージがない
人口		若年世代の流出がある
支援		地域移住コーディネーターがない
		交流の窓口がない
医療		医療機関等の不足（病院、介護、各種施設、システムなど）
放射能		放射能に関する不安感
		風評被害がある
		放射能の被害がある

【外的環境】

機会（チャンス）	脅威（ピンチ）
相馬福島道路の開通による経済効果の期待	人口減少・少子高齢化社会
環境（循環型社会）に対する意識の高まり	労働人口の減少
地方分権の推進	景気の低迷
地域の担い手となる団塊の世代の増加	雇用環境の悪化
市民ニーズの多様化・高度化	ニートの増加
増加する外国人観光客	生産拠点の国外への流出
まち・ひと・しごと創生法による地域活性化対策の進展	温暖化による地球規模の環境破壊
避難者が定住している現状	税収の減少などによる国・地方公共団体の長期債務残高の増加
安心・安全意識の高まり	激化する自治体間競争
地域の歴史・文化の再認識	急速な高齢化による福祉ニーズの増大
市民参画・協働意識の高まり	都市部への人口集中傾向が続く中での地域間格差の拡大
価値観の多様化	人口減少に伴う地域コミュニティの活動低下
教育や子育てに対する関心の高まり	伊達市の合計特殊出生率が県内最下位
	放射能による風評被害

※事務局分析結果